

ふるさとの文化財探訪

九重町文化財調査報告という冊子について

文化財調査員 音成 葉子

「ゆく人の流れは絶えずして、しかももとの世にあらず」

方丈記風に言いますと、こんな具合でしょうか。

一人の人としてみればほんのわずかな短い命ですが、その一生を次の世代へと移りゆきながら人間は、長い歴史をたどっています。文化財はその人々の営みから生まれたものであります。

九重町文化財調査では、それらを発掘・発見し、調査と記録を行ってきました。その記録集として、『文化財調査報告』という冊子を昭和五十二年度よりほぼ毎年発行し、現在で第三十九輯になりました。

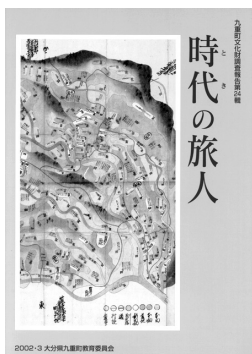
一冊一冊を手にとりまると、石造物を取り扱ったもの、仏像・神像を取り扱ったもの、建造物、神楽など受け継がれてきたものや発見されたものを、その銘や造りから成り立ちを、時代と照らし合わせて検証し、解説書として記しています。この冊子はこれまでこの町で起こったことを証明するもので、町内の図書館においてあり、誰にでも手にとることができます。

難しい漢字や語句などに、やや取つきにくいと思われるかもしれませんが、ただ、うっかり八兵衛のようにあやふやな事柄を脚色しながら話し言葉のように伝えることは、興味は持ってもらえても、

間違った歴史を残すことにもなるのできません。

しかしながら敬遠されずに少しでも町内の歴史に関心を持ってもらいたい。大事に受け継いでもらいたいと考え、発行したのが第二十四輯の『時の旅人』という冊子です。こちらは九重町の文化財について大まかにまとめられた、いわば入門書的な冊子です。オールカラーのページで、子どもさんにも読みやすい冊子なので、是非一度ご覧ください。自分の暮らす地区がどんな歴史をたどってきたのかページをめくる度にその時代の風景が浮かんできます。そこから興味があるものを深掘りしてみるのもよいかと思えます。その時は第一輯から第三十九輯をご活用ください。

何でもインターネットで知ることができる現代となりつつありますが、絶えず流れ続ける気休めの情報ではなく、長い時間をかけて丁寧に検証し、紙に記した調査報告。後世へと伝えてきたものは、先人たちがこの土地で自らの体を使って残し、歩み続けてきた確かな生き様ではないだろうかと思うのです。



幸せになろうね



No.296



2020年度 ここのえ学園（こども園・小学校・中学校）を卒業する子どもたち！

九重町教育委員会では、「ここのえ学園」での「人権教育共通教材」や学校での特徴的な実践等を通して、心豊かな子どもの育成を進めています。

6歳、12歳、15歳の節目でそれぞれの成長が微笑ましいです。

みなさんの成長とともに、私たち大人も成長していかなければなりません。

みなさんが卒業したその先に、どんな未来が待っているのでしょうか！

新しい明日へ、羽ばたいてください。

教育振興課



3月18日：みつばこども園 43名の卒園児童。
同じ日に飯田こども園でも卒園式を行っています。



3月24日…
南山田小学校の
卒業証書授与式
の様子。



3月5日：ここのえ緑陽中学校 60名の卒業生。